

◎世界に羽ばたく卒業生 <チェンバロ奏者>

行動力と発信力を持ち、
楽器の魅力を伝える奏者に

●チェンバロ奏者 濱田 あや さん

現代屈指のチェンバロ奏者として、ニューヨークを拠点に世界各地で演奏活動を展開する卒業生の濱田あやさん。今春は、国際的なチェンバロの祭典「Harpichord Heaven」に出演し、日本人で初めて“世界の9人のチェンバロ奏者”に選出された。「優れた演奏は言うまでもなく、それだけでは通用しないのが「世界の舞台」という濱田さんに、神戸女学院大学での学びや経験がどのように役立っているのか、話を聞いた。

■濱田あや(はまだ・あや) 神戸女学院中学部、高等学部、同大学音楽学科を卒業後、ジュリアード音楽院古楽演奏科修士課程を最優秀の成績で修了。プロミュージカ室内管弦楽団首席チェンバロ奏者、レザール・フロリサン伴奏要員、古楽アンサンブル「クイーンズ・コンソート」のメンバー。日本、北中南米、欧州各地でリサイタルを開催。ロンドン音楽祭コンクール第1位、ジョセフ・ホフマン・ピアノコンクール第2位など受賞歴多数。ニューヨーク・マンハッタン在住。



●チェンバロとの出会い

16〜18世紀に広く西洋で用いられた鍵盤楽器、チェンバロ。打鍵すると鳥の羽軸などで作られた爪が弦をはじき、美しい音を奏でる。濱田さんがこの楽器に魅了されたのは、家族旅行でチェコを訪れた大学1年生のこと。プラハのモーツァルト博物館で、実際にモーツァルトが過ごした部屋に立ち、彼が弾いていたチェンバロに触れた。「18世紀にタイムスリップしたような衝撃を受けました。目の前に新しい世界が広がったのです」。

濱田さんの専攻はピアノだったが、帰国後すぐに副専攻でチェンバロを履

Cembalo
Aya Hamada

●大切なのは、進んで行動する力

現在、濱田さんは日本、北中南米、欧州…と、世界を舞台に演奏活動を行っている。訪れる国に合わせて英語、フランス語、イタリア語、日本語の4カ国語を使い分け、演奏会のプログラムの企画や資料作成、広報も自ら率先して手がけ、Web等で発信する。

2015年にリリースされたデビューCD「デュプリ・クラヴサン曲集」も、スタッフの人選やバリでの録音会場の選定、スケジューリングまで自身で行った。「今は様々なことが求められる時代。誰かがやってくれるのを待っていたら、いつまでたっても進めません。今、こうして自分の活動に責任を持って取り組めるのは、神戸女学院大学で、音楽だけに偏らず、外国語や文学、美術など、多様な領域を学修し、見聞を広げていただいたおかげ。当時、音楽に直接関係がないのでは?と思っていた内容も、振り返ってみると全てに意味があったと感じます」。

●続けることが奏者としての貢献

国によっては馴染みの薄い楽器とされるチェンバロ。濱田さんは奏者として、その音色の奥深さや多彩なレパートリーなど、楽器のもつ魅力を一人でも多くの人に伝えたいと考えている。

「今はYouTube等があり、何処でも聴いていただける。私が演奏活動が続けることでその機会を増やすと共に、若手の育成もサポートしていきたいです」。